

平成23年3月期 第2四半期決算概要

1. 連結決算実績 (22年4月~22年9月)

(1) 全体概要 (連結会社数: 連結子会社62社、持分法適用関連会社4社) (単位: 百万m<sup>3</sup>、億円、円)

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)	(参考)個別決算
ガス販売量	6,934	6,166	768	12.4	6,337
売上高	7,013	6,320	693	11.0	6,037
営業利益	480	464	16	3.5	315
経常利益	458	505	△47	△9.3	386
四半期純利益	255	327	△72	△21.9	272
1株当たり四半期純利益	9.54	12.07	△2.53	△21.0	10.18
1株当たり純資産	300.05	301.58	△1.53	-	255.05

(注1) 1株当たり純資産は22年3月期末との比較

<当四半期決算のポイント>増収は2期ぶり、減益も2期ぶり。売上高は歴代2位(過去最高はH20)。経常利益は歴代3位(同H18)  
 ○原料価格上昇に伴う原料費調整制度による売上単価増(145億円)並びに気温影響及び景気の緩やかな回復等によるガス販売量の増(12.4%)に伴う都市ガス売上高の増(551億円) ○扇島パワーステーションの稼働に伴うその他エネルギー(電力)売上高の増(179億円) ○原油高に伴うガス原材料費の増(760億円) ○21年度年金資産運用の改善に伴う退職給付数理計算上の差異の負担減(258億円)による諸給与の減

- 売上高は、原油価格上昇に伴う原料費調整制度による売上単価増、並びに年度初めの気温が低く推移したことによる家庭用を中心とした給湯需要の増、夏場の猛暑による業務用を中心とした空調需要の増及び緩やかな景気回復を背景とした工業用既存設備の稼働増から、ガス販売量が12.4%増加したこと等により都市ガス売上高が11.8%増の5,218億円となったこと、及び扇島パワーステーションの稼働等に伴いその他エネルギー(電力)売上高が179億円増加したこと等から、11.0%増の7,013億円となりました。
- 営業費用は、退職給付数理計算上の差異の負担減258億円があったものの、ガス原材料費が原油高の影響により760億円増加したこと等により、11.5%増の6,532億円となりました。この結果、営業利益は3.5%増の480億円となりました。一方、為替差損益が前年同期に比べ73億円悪化したこと等により、経常利益は9.3%減の458億円となりました。
- これに加え、投資有価証券評価損23億円を特別損失として計上し(前年同期は特別損益の計上はなし)、四半期純利益は21.9%減の255億円となりました。
- なお、中間配当金につきましては、1株当たり4.5円といたします(年間予定9円)。

(2) ガス販売量 (販売量は45MJ/m<sup>3</sup>表記)

		当四半期	前年同期	増減	増減率(%)	
お客さま件数		千件	10,673	10,563	110	1.0
ガス販売量	家庭用	百万m <sup>3</sup>	1,359	1,300	59	4.5
	業務用	百万m <sup>3</sup>	1,569	1,471	98	6.7
	工業用	百万m <sup>3</sup>	3,087	2,558	529	20.6
	計	百万m <sup>3</sup>	4,656	4,029	627	15.6
	他事業者向供給	百万m <sup>3</sup>	919	837	82	9.8
合計		百万m <sup>3</sup>	6,934	6,166	768	12.4
平均気温		℃	23.0	22.4	0.6	-

- 家庭用需要は、年度初めの気温が前年同期と比較して低く推移した影響で給湯需要が増加したこと等により4.5%増加しました。
- 業務用需要は、夏場の気温が前年同期と比較して高く推移した影響で空調需要が増加したこと等により6.7%増加しました。
- 工業用需要は、緩やかな景気回復を背景とした既存設備の稼働増及び発電用需要が増加したこと等により20.6%増加しました。
- 他事業者向供給は、年度初めの低気温や夏場の高気温影響、工業用設備の稼働増等に伴う供給先事業者の需要増により9.8%増加しました。

(3) 収支概要 (都市ガス以外の内訳は「(4) 部門別の概況」参照。全社費用は各事業に配賦不能の営業費用) (単位: 億円)

収益		増減	増減率(%)	費用		増減	増減率(%)
都市ガス	5,218	551	11.8	都市ガス	2,833	760	36.7
				その他	1,834	△150	△7.6
都市ガス以外		2,679	15.7	都市ガス以外	2,552	338	15.3
事業間内部消去		△884	-	全社費用	203	△53	△20.5
売上高		7,013	11.0	事業間内部消去	△892	△220	-
				営業費用	6,532	676	11.5
				営業利益	480	16	3.5
営業外収益		99	△18.5	営業外費用	121	41	50.7
				経常利益	458	△47	△9.3
特別利益		-	-	特別損失	23	23	-
				四半期純利益	255	△72	△21.9

(4) 部門別の概況 (単位: 億円)

	売上高		増減	増減率(%)	営業利益		増減	増減率(%)	
	当四半期	前年同期			当四半期	前年同期			
都市ガス	5,218	4,667	551	11.8	550	609	△59	△9.7	
都市ガス以外	器具及びガス工事	748	731	17	2.3	8	6	2	17.4
	その他エネルギー	1,054	740	314	42.4	51	45	6	12.4
	不動産	165	164	1	0.4	39	39	-	△0.4
	その他	711	678	33	4.8	27	8	19	225.7
都市ガス以外	2,679	2,314	365	15.7	126	100	26	25.8	

(注1) 売上高には事業間の内部取引を含んでおり、営業利益には配賦不能営業費用を含んでおりません。

(注2) 前年同期の数値は、前年同期の金額を新セグメントに組み替えた参考値です。

(5) 主要計数

	当四半期	前年同期	増減	増減率(%)
原油価格 (\$/bbl)	78.35	61.82	16.53	26.7
為替レート (円/\$)	88.91	95.53	△6.62	△6.9
設備投資 (億円)	668	579	89	15.3
有利子負債 (億円)	6,500	5,559	941	16.9
その他有価証券評価益 (億円)	208	320	△112	△34.9

(注) 有利子負債、その他有価証券評価益は22年3月期末との比較

2. 通期 (23年3月期) の業績予想

<業績予想のポイント: 前回業績見直しに対して>

- 連結業績予想は主に個別の業績予想の見直しに伴い、売上高は1.7%減少するものの、経常利益は9.8%増加の見通し。
- 個別業績予想は前回業績予想と比較し、上期の気温影響等によりガス販売量は1.4%上回るものの、円高の進行による原料価格の低下がガス料金に反映されることにより、売上高は1.9%減少の見通し。
- 一方、売上高の減少は原料価格の低下で概ね相殺され、ガス販売量の増加に伴う粗利改善により、経常利益は8.2%増加の見通し。
- 経済フレームは、10月以降、原油価格80\$/bbl、為替レート85円/\$と想定。

(単位: 百万m<sup>3</sup>、億円)

	連結決算						個別決算			
	通期業績予想	対前期		対前回(7/29発表時)		通期業績予想	対前期		対前回(7/29発表時)	
		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
ガス販売量	14,685	1,019	7.5	220	1.5	13,471	321	2.4	185	1.4
売上高	15,250	1,093	7.7	△260	△1.7	13,190	1,084	9.0	△250	△1.9
都市ガス	11,333	874	8.4	△227	△2.0	10,710	602	5.9	△260	△2.4
都市ガス以外	3,917	220	5.9	△33	△0.8	2,480	483	24.2	10	0.4
営業利益	1,160	308	36.1	80	7.4	850	259	43.8	50	6.3
経常利益	1,120	285	34.1	100	9.8	920	331	56.1	70	8.2
当期純利益	680	143	26.4	30	4.6	630	242	62.0	20	3.3
有利子負債	6,220	661	11.9	△240	△3.7	5,360	523	10.8	-	-
ROA	3.7%	0.7	-	0.2	-	4.1%	1.5	-	-	-
ROE	8.2%	1.4	-	0.3	-	9.0%	3.2	-	-	-
D/Eレシオ	0.74	0.06	-	△0.03	-	0.75	0.04	-	-	-

(注) 事業間の内部取引高は都市ガス以外の欄で調整しています。

<前提となる経済フレーム>

	今回通期見通し	対前期		対前回(7/29発表時)	
		増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
原油価格(\$/bbl)	79.18	9.78	14.1	△0.82	△1.0
為替レート(円/\$)	86.96	△5.93	△6.4	△8.04	△8.5

(注1) 原油価格: 前期実績69.40\$/bbl、前回見通し80.00\$/bbl 3Q以降原油+1\$/bblの収支影響: △9億円(売上高7億円、原料費16億円)

(注2) 為替レート: 前期実績92.89円/\$、前回見通し95.00円/\$ 3Q以降為替+1円/\$の収支影響: △9億円(売上高18億円、原料費27億円)